

2021年 事業報告書
2021年1月1日から2021年12月31日まで
(特活)福島県の児童養護施設の子どもの健康を考える会

1. 事業概要

特定非営利活動法人化して10年目となり、第8回定時総会を2021年2月20日ZOOMによるオンラインで開催して、2021年度の活動、予算の承認を得た。理事会は2月、7月、10月に、オンラインで3回開催した。6月に、監事に鈴木栄一氏(白河学園施設長)が就任して、役員7名体制で運営した。

本年度も昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症のために、児童養護施設への訪問が制限されたため内部被曝のモニタリング検査(甲状腺検査、尿検査)を計画したが実施できなかった。一方、福島県内の児童養護施設で働く看護師の勉強会をオンライン開催して、感染予防の情報交換などを行った。また、新規事業として、コロナ禍で生活が不安定になりがちな卒園生を対象とした「食料支援」を開始した。

復興庁 令和3年度「新しい東北」復興創生の星顕彰を受賞した。

事業1:健康状態把握事業は、「健康手帳」を、7施設の2021年3月で施設を出て自立する卒園する若者19名、家庭復帰児童10名に体温計とバンドエイドとマスクを贈ることができた。また、冊子「熱が出たとき」も一緒に贈った。

児童養護施設を卒園した後の生活の中での、怪我や病気のファーストエイドや健康管理を学んでもらうためのワークショップ「自立後の健康管理」は、新型コロナウイルス感染予防対策をしながら、1児童養護施設ではあったが開催できて、卒園前の高校3年を対象として、ロールプレイを交えながら行った。

児童養護施設を既に卒園した人を対象の事業として、コロナ禍での生活の支えになるように「食料支援」を開始して、123名(7施設)に、非常用食料を中心に贈った。ここに、健康相談窓口となるSNSの紹介カードを入れて、相談しやすい体制を作った。

外部被曝のモニタリング事業は、ポケット線量計による測定を2施設で継続した。内部被曝のモニタリング事業では、要フォローの児童と職員(県民健康調査甲状腺検査対象者)の検査の受診を支援した。

新型コロナウイルス感染症対策として、感染症発生時対策用品の設置(2児童養護施設)と、入手困難な感染予防物品の提供を行った。

事業2:被曝に係わる事業は、2011年の原発事故直後の避難の記録「子どもの未来を守るためのFACT BOOK 2011.3.11—福島県の児童養護施設の被災体験」の発刊のためにインタビュー等を行った。

事業3:健康教育に係わる事業は、①青葉学園で卒園生を対象としたワークショップで甲状腺の自己検診の指導をした。②冊子「熱が出たとき」を健康手帳と一緒に卒園生に贈り、甲状腺の自己検診の方法を図解した。また発熱したときに新しく転居した住居地の発熱センターと受診方法をまとめて渡した。

事業4:看護職等専門職の連携推進事業は、「福島県の児童養護施設の看護職等研究会(福島県内の児童養護施設で働く看護師の勉強会)」ZOOMによるオンラインで3回(3月、6月、10月)開催した。各回、報告書を作成して児童福祉部会長に提出した。

事業5:市民を対象とした啓発活動事業では、ニュースレターを2回発行した。また、広報用のパンフレットを改訂した。

NPO設立10周年記念誌として、「子どもの未来を守るためのFACT BOOK 2011.3.11—福島県の児童養護施設の被災体験」の発刊準備をして、5周年記念誌発刊以降の5年間の活動をまとめた。

また、卒園した児童養護出身者を対象とした事業を担う「一般社団法人 すこやかなの会ふくしま(2019年12月設立)」と連携をして、前出の①卒園生への食料支援、②児童養護施設の自立支援相談専門員など卒園前後の支援をする職員を対象に「アフターケア担当者の研修会」を開催した。

日本ルーテル教団、聖公会 Girls Friendly Society、はらからの歌声、2010オリーブの木、その他教会からは継続しての寄附、FACTBOOK2011.3.11の指定寄附を受け、他にも多くの団体、個人の寄付を頂戴した。2021年12月31日現在、正会員28名、賛助会員63名、法人会員2法人により支えられた。